

「松下アジアスカラシップ」詳細

助成番号	研究テーマ(留学目的)		
	留学国	留学機関	留学期間
	氏名	所属	区分
00-007	分断体制成立過程における本国朝鮮人と在日朝鮮人との関係性の考察 —「南北統一」を巡る言説分析を中心として—		
	韓国	ソウル大学校社会科学大学	
	小林聡明	一橋大学大学院	院生修士

研究テーマ(留学目的)の説明 (助成決定時のテーマ。文責は本人)

1945年8月の朝鮮解放から48年9月の南北分断体制成立までの研究は、韓国においては政治的理由から困難であり、日本においても学問的蓄積が極めて少ない。そして、このような学問的蓄積の大部分は、本国朝鮮と米国との関係性からの分析である。

日本の敗戦以後、日本と朝鮮半島は米国の占領統治下に入っていたという同位体的な社会状況において、在日朝鮮人によるメディアは、本国朝鮮から発信されていた『解放通信』や『共立通信』などの通信社と契約し、ニュース配信を受け、『解放日報』などの新聞報道をも引用するなど、本国朝鮮のメディアと密接な関係性を持っていた。また、解放直後、日本にいた在日朝鮮人は60万人以上と言われ、朝鮮半島と日本との関係史を語る上で重要な存在であったことは否定できない。だが、韓国における分断体制形成過程の研究系譜において、在日朝鮮人という視点は完全に欠落しており、日本においては、在日朝鮮人の存在を認識し、研究はされてはきたが、本国朝鮮人と在日朝鮮人との関係性という視点によるものは皆無である。

私は、修士課程において、まずGHQ占領期において在日朝鮮人の手によるメディアがどのような社会的脈絡から誕生したのかを整理した。そして、GHQの検閲によって「削除」「不許可」となった在日朝鮮人発行の新聞記事のゲラを用いて、GHQによって封じられた在日朝鮮人の「声」を明らかにした。「南北統一」を分析軸として、それらのゲラを内容分析した。換言するならば、在日朝鮮人発行の新聞に対するGHQの検閲という弾圧が行われた状況の下で、祖国の「南北統一」に対する在日朝鮮人のまなざしがいかなるものであったのかを明らかにした研究であった。

だが、本国朝鮮での言論状況を整理しつつ、本国朝鮮人が「南北統一」についてどのように考えていたのか分析しない限り、本国朝鮮人と在日朝鮮人との関係性に対する言及は不可能であり、既存研究批判の克服は困難である。

そのためには、韓国・ソウルへの留学が、私の研究において不可欠なものであり、韓国で私が行おうとする研究は、博士論文完成にとって非常に重要な一部分を構成するものとなる。

- 氏名： 小林 聡明
- 所属： 一橋大学大学院社会学研究科
- 留学先国名： 大韓民国
- 大学・研究所名： ソウル大学言論情報研究所
- 留学期間： 2001年9月～2002年9月
- 研究テーマ： 在日朝鮮人メディア研究

目次

1. はじめに
2. 在日韓国・朝鮮人
3. 語られない歴史
4. 占領期在日朝鮮人メディアの有効性
5. 占領期在日朝鮮人メディア研究の可能性

1. はじめに



W杯日韓共同開催
日韓友好言説の生成

2. 在日韓国・朝鮮人

- 不可視化される存在
在日韓国・朝鮮人
- 国籍による区別
- 韓国籍；在日韓国人
- 「朝鮮」籍：在日朝鮮人

北 / 南の対立する 2 項に押し込めて理解をしようとする暴力

日本における朝鮮民族の分断に「寄与」してしまう認識

3. 語られない歴史

- 重なりあう歴史 解放 / 敗戦後の米国による朝鮮半島南部と日本の占領
「経験の共有」を引き受けさせられた在日朝鮮人

(1) 占領史研究の文脈

- 日米関係を基軸とした歴史記述
戦後日本社会の確固たる構成員であった在日朝鮮人の存在の見落とし
戦後日本の多層的な社会構造を均質的なものとみなす危険性

(2) 在日朝鮮人史研究の文脈

- 在日朝鮮人団体の活動を中心とした運動史的側面
冷戦構造を分析枠組みとした歴史記述
在日朝鮮人の歴史を2項対立的な枠組みから把握
- 在日朝鮮民衆の生活世界や思想的な広がりを記述する限界

4. 占領期在日朝鮮人メディアの有効性

- 戦後日本の社会経済構造の反映
- 在日朝鮮人の「声」をつむぎだす「蓄音機」；GHQの検閲によって封じられた「声」の再生

5. 占領期在日朝鮮人メディア研究の可能性

- 戦後日本の多層的で重層的な構造の把握
- 2項対立的枠組みを乗り越え、在日朝鮮人の複合的な社会層の把握
- 朝鮮半島と日本をつなぎ、ナショナルな枠組みを超えた歴史記述

留学の成果:

- ・ 日韓の知的ネットワークの構築
- ・ 日本、朝鮮半島を超えた東アジアへと広がるまなざしの拡大
- ・ 博士論文完成に向けての進展

反省:

- ・ 「日本人」というナショナリティをまとった「私」が在日朝鮮人を語ることの困難さと限界を明確にできなかった。 立場性の不明確さ
- ・ 文献資料を中心とした資料収集だったため、韓国内におけるフィールドワークを通じた資料収集の不足